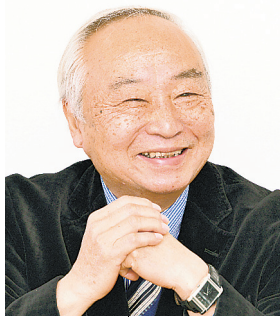


論説

アルツハイマー病の進行を遅らせる新薬は出回るのか。

エーザイと米國バイオジエンは、共同開発の「レカネマブ」の最終治験で、「有効性を確認」と発表した。今年度中にも日米で承認を申請する。

従来の症状を和らげる薬ではなく、脳内にたまって



宮武 剛

アルツハイマー新薬

神経細胞を壊す「アミロイドβ（ベータ）」を除く。早期の患者約1800人（0万円）が原因で普及していない。今回の価格はまだ未公表である。

を対象に偽薬投与グループと比べ、レカネマブ投与側で症状の悪化が「27%抑制」された。脳の浮腫等の副作用も一部生じたが、「制御

用も一部生じたが、「制御」も。新薬は有効性と安全性、さらに費用対効果を問われ、病の公費が助成される。もう

患者に朗報・制度は試練

可能」という。

両社は先に類似の「アデユカヌマブ」を開発したが、日本やEUで承認を見送られた。米国では条件付き承認

除組合連合会（約1400万人）の2021年度高額レセプトの1〜7位を占めた。患者の自己負担は通常「高額療養費制度」で支払い可能な範囲に抑えられるが、ゾルゲンスマは小児難病の公費が助成される。もう

「葉漬け」とも言える過剰投与、重複投与の防止、湿布、保溫剤等まで保険を適用する悪習の徹底的な是正、ゼネリック医薬品の普及促進など取り組むべき課題は山積みだ。

みやたけ・こう NPO法人福祉フォーラム・ジャパン副会長、学校法人・社会医学技術学院顧問

近年は超高額の画期的な薬剤が相次ぐ。代表例は、2歳未満の脊髄性筋萎縮症の遺伝子治療薬「ゾルゲンスマ点滴静注」で、1回の投与で劇的に効く。値段は1回で約1億6700万円に上る。大企業従業員らの健康保険

（本誌論説委員）